

例 言

1. 本書は、埼玉県入間郡大井町の個人住宅建設などの小規模開発に伴う、記録保存のための町内遺跡発掘調査報告書である。
2. 発掘調査および整理作業は、国（1,990,000円）、県（995,000円）の補助金を受け、平成3年4月9日から平成4年3月31日まで実施した。
3. 調査組織

調査主体者	大井町教育委員会
教育長	小林茂吉
社会教育課長	吉田和子
町史・文化財係長	岩崎保夫
町史・文化財係	坪田幹男・高崎直成・鍋島直久
発掘調査担当者	坪田幹男・高崎直成・鍋島直久
4. 本書の執筆は調査担当者があたり、文末に記した。
遺構図版作成は小林登喜江、石器実測図版作成は鍋島直久、土器拓影図作成には整理作業参加者全員の協力を得た。また、本書の編集・挿図の作成については今井堯氏の絶大な援助と協力を得た。
5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏、機関により御指導、ご協力を賜った。
浅野晴樹、荒井幹夫、今井堯、内田賢司、加藤秀之、神木繁嘉、駒井和久、桜井信枝、佐藤正志、笹森健一、田代治、谷井彪、塚田政子、原口雅樹、早坂廣人、松本新八郎、松本富雄、三上七五郎、柳井章宏、柳沢健司、和田晋治（敬称略）
埼玉県教育局指導部文化財保護課、大井町大井・苗間第一土地区画整理組合、亀久保特定土地区画整理組合、大井町遺跡調査会、大井町立郷土資料館。
6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。明記して謝意を表したい。
〈発掘調査参加者〉（敬称略）
会沢泉、浅野昭夫、新井和枝、飯塚泰子、石川与一、井上晴江、内田信治、海老原サナエ、大曾根キク子、遠田つる、笠原英子、金子君子、神木光治、小林こずい、小山エミ子、佐久間ひろ子、佐藤至一、佐藤智子、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木健蔵、関田成美、高木千恵子、戸澤竹二、中嶋末子、並木宗次、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、細谷清作、山内栄美子、山下一枝、若尾久美子、若林紀美代。
〈整理作業参加者〉（敬称略）
石垣ゆき子、須藤さち子、柚木嘉図子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、中野和子。

凡 例

1. 本書の図版の縮尺は、住居・土坑 $\frac{1}{60}$ ・炉 $\frac{1}{30}$ ・石器実測図 $\frac{1}{4}$ ・土器拓影図 $\frac{1}{3}$ とした。
2. 遺構図中の細数字は、床面もしくは確認面からの深さ(cm)を示す。
3. 胎土粒子に関する各項の基準は次のように定めた。
小礫；2.0mm以上、粗砂；0.2～2mm、細砂0.2mm以下。
4. 土器図の断面図の表図は、「網目」が繊維含有、「黒丸」が雲母末を含有する縄文土器を表している。

I 経 緯

○ 調査に至る経緯

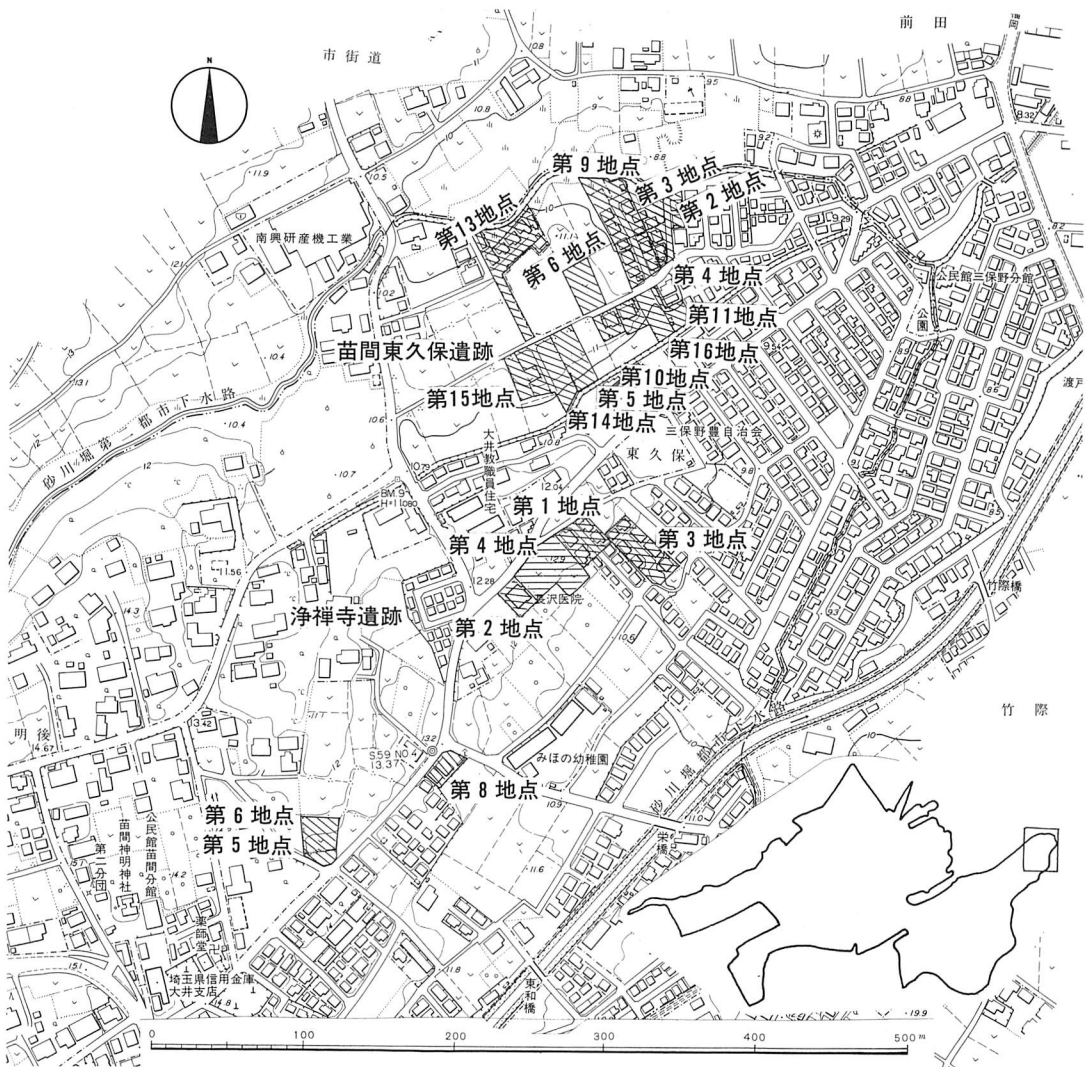
埼玉県大井町は、首都圏30km圏内の県西南部に位置する。かつては畑作を中心とする純農村地帯であったが、昭和40～50年代にかけて人口で約22,000人、6,000戸が急増した。面積8km²で現在の人口は39,000人を超えている。昭和60年代以降は、大規模な土地区画整理事業が進められ、町内遺跡の約80%近くがその区域内に位置しているため、土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査が町遺跡調査会により通年実施されてきている。町では、国庫補助を受けて「東部遺跡群発掘調査事業」（昭和53年～平成元年）「町内遺跡(群)発掘調査事業」（平成2年～）として民間の小規模開発に対処するため、埋蔵文化財の調査を実施してきた。遺跡の調査は、庁内関係各課と連絡調整をして行ってきた。農業委員会事務局から農地転用許可申請段階、また、建設課から開発事前協議・建築確認等の申請段階でそれぞれチェックされ、教育委員会は遺跡地図と照合のうえ現地踏査を実施し、遺跡の状況を確認したうえ、遺跡に影響をおよぼすとみなされる工事主体者に連絡し、協議を行った。その結果、教育委員会が記録保存のための発掘調査を工事主体者から依頼され、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施することになったものである。平成3年度の調査は、下記の21箇所であった。民間及び公共事業に伴う埋蔵文化財の試掘調査についても、国庫補助事業として対応した。（坪田幹男）

NO	遺 跡 地 点 名	所 在 地	開発面積	調 査 原 因	調 査 期 間
1	西ノ原遺跡第46地点	大井町苗間83-2	199m ²	個人住宅建設	2, 4, 9～4, 10
2	亀居遺跡第27地点	" 亀久保995-2	249m ²	"	5, 7, ～5, 20
3	本村遺跡第20地点	" 大井253-1	1,150m ²	"	5, 21～6, 14
4	東台遺跡第19地点（試掘調査）	" 大井621	4,489m ²	特別養護老人ホーム建設	5, 31～6, 7
5	大井氏館跡遺跡第5地点（"）	" 大井	2,220m ²	営業所建設	6, 11～6, 17
6	鶴ヶ岡遺跡第1地点（"）	" 鶴ヶ岡3-3-1, 21	5,71m ²	体験学習園整備	6, 26～7, 17
7	西ノ原遺跡第47地点	" 苗間136-2	141m ²	個人住宅建設	7, 15～7, 26
8	亀居遺跡第30地点	" 亀久保1007-3, 1008-3	116m ²	"	7, 22～7, 23
9	西台遺跡第1地点（試掘調査）	" 大井894-2	1600m ²	資材置場	7, 24～7, 25
10	本村遺跡第22地点	" 大井108, 109	110m ²	個人住宅建設	7, 15～7, 31
11	浄禅寺遺跡第5地点（試掘調査）	" 苗間374-9	100m ²	"	8, 28～9, 3
12	本村遺跡第23地点（"）	" 大井169	268m ²	"	8, 29～8, 30
13	浄禅寺遺跡第6地点（"）	" 苗間358-1	826m ²	"	9, 21～9, 24, 12, 3・26
14	亀居遺跡第31地点	" 亀久保995-2, 7	197m ²	"	9, 26・30
15	大井清水弁財天遺跡（試掘調査）	" 大井267・263	42m ²		11, 11～11, 14
16	亀居遺跡第32地点	" 亀久保1008-1	115m ²	個人住宅建設	12, 3～9
17	亀居遺跡第33地点	" 亀久保1011-7	998m ²	"	12, 10～12, 26, 3, 2, 10～2, 1
18	亀居遺跡第34地点（試掘調査）	" 亀久保995-2	634m ²	"	3, 2, 13
19	西ノ原遺跡第51地点（"）	" 苗間153-2	1,190m ²	モデルルーム建設	2, 4, ～2, 12
20	西ノ原遺跡第52地点（"）	" 苗間122	984m ²	ガソリンスタンド建設	2, 10～2, 20
21	鶴ヶ岡遺跡第3地点（"）	" 鶴ヶ岡1-110-5	646m ²	資材置場	3, 25

VI 浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡

VI-1 遺跡の立地と概要

浄禅寺跡遺跡と苗間東久保遺跡は共にさかい川と砂川堀に挟まれた標高12~14mの台地上に立地し、間に浄禅寺川が東流する。浄禅寺川の南側、水源地近くが浄禅寺跡遺跡で縄文早期から前期の土器を伴う炉穴や土坑が検出されているが、住居は未検出である。苗間東久保遺跡は、浄禅寺川の北側、さかい川に南面する台地に立地する縄文時代の遺跡で、過去の調査では早期後半から前期のピット・土坑・炉穴、中期中葉から後期前半の住居跡等を検出している。ちなみに住居跡等は遺跡の北東部で8軒検出している。



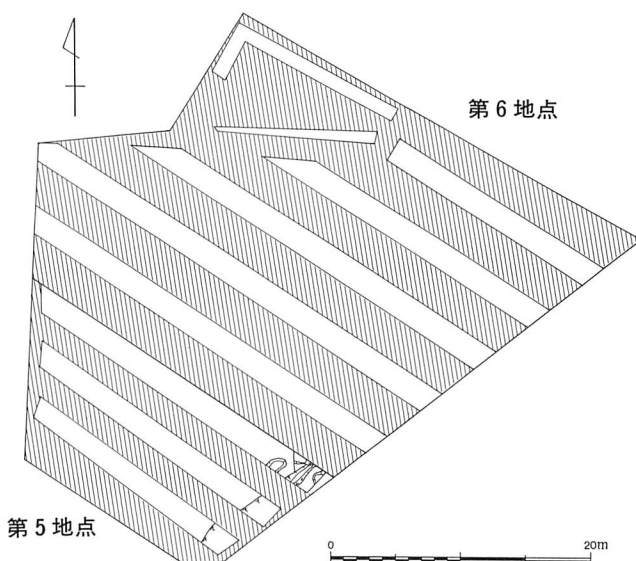
第32図 浄禅寺・苗間東久保遺跡の地形と調査区 (1/5000)

VI-2 浄禅寺跡遺跡第5・6地点

(1) 調査の経過と概要

1991年8月1日(第5地点)及び8月21日(第6地点)に、遺跡内にある畑地の地権者より共同住宅建設の申請があった。調査区は遺跡の西端に隣接し、遺跡名のもととなった浄禅寺川水源地の南西斜面に位置するが、遺物が散布する台地部分とは異なり、窪地へ向かう傾斜地で、畑の表面採取でも土器等の遺物は少なかった。そこで遺跡の範囲を確認する意味で試掘調査を行うこととなった。

浄禅寺跡遺跡第5地点の調査は8月28日に開始し、幅2mのトレ

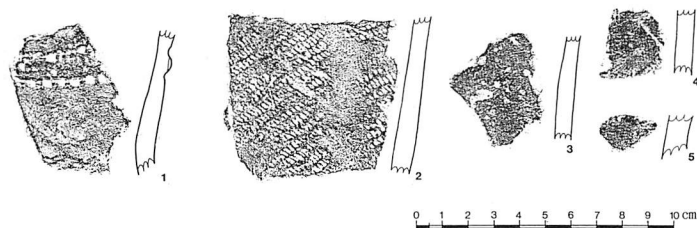


第33図 浄禅寺跡遺跡第5・第6地点調査区域図 (1/600)

ンチを東西方向に3本設定、第6地点の調査は9月21日に開始し、トレンチを5本設定した。どちらも重機にて60cmほど表土除去し、あとは人力で遺構確認面まで掘り下げた。その結果、第5地点では東側の道路に面した部分に根切り溝があった他は特に遺構覆土らしき土も無く、遺物も縄文中期の土器が一片だけ出土した。第1トレンチにあるピット状の穴も遺構というより、自然の窪みに近い。また第6地点でも北西部の傾斜地でわずかに縄文土器片が出土しただけであった。両調査区の西側は傾斜しており、地山もロームから低地特有の黑色土に変化する。第5地点は9月3日までに、第6地点は9月24日までにそれぞれ実測及び写真撮影を行ない、調査を終了した。

(2) 遺物

1は第5地点出土土器で、隆帯の両脇を半載竹管で押し引きしている。金雲母を含む。2～5は第6地点出土土器で、2はRLの単節縄文を縦に施文する。他は無紋である。(高崎直成)



第34図 浄禅寺跡遺跡第5・第6地点出土土器 (1/3)

中沢前遺跡



調査前全景



トレンチ全景

浄禅寺遺跡第5・第6地点



調査区全景



調査風景



トレンチ全景

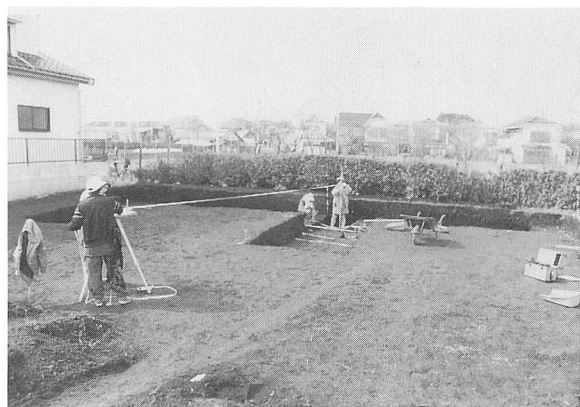


第5地点 土坑

苗間東久保第17地点



調査前風景



調査風景